

日本原子力学会標準委員会 リスク専門部会 レベル 3PRA 分科会

第 36 回会合議事録

日時：2023 年 2 月 9 日（木）15:00～17:00

場所：WebEx による Web 会議

出席者：

委員：津崎主査（電中研）、木村幹事（JAEA）、田原幹事（東芝 ESS）、飯本（東大）、池田（CTC）、岩波（日立 GE）、岡村（原燃）、菅野（VIC）、木村（電中研 佐々木委員代理）、神野（原電）、斯波（JANUS）、高原（JAEA）、鄭（JAEA）、長江（関電）、泥谷（NEL）、廣内（JAEA）、宮原（MHI）、吉田（東電 HD）【18 名】

常時参加者：角谷（JANUS）、黒川（電中研）、鈴木（NRA）、成宮（JANSI）、松下（東芝 ESS）、渡辺（原電）【6 名】

欠席委員：向原（TEPSYS）、佐々木（電中研）、横山（藤田医科大）【3 名】

配布資料

P8SC36-0：議事次第

P8SC36-1：人事について

P8SC36-2：第 35 回 L3PRA 分科会議事録（案）

P8SC36-3：倫理教育に係る問いかけについて

P8SC36-4：(P8SC30-4)レベル 3PRA 改定作業検討スケジュール(改訂案)

P8SC36-4-10-1：(P8SC34-4-2) L3PRA 標準への意見_第 36 回用

P8SC36-4-10-2：附属書 I_防護対策による線量低減解析_改定案

P8SC36-4-11-1：11 章_健康影響評価_改定案（前後表）_20230207

P8SC36-4-12-1：12 章_ASME ANS L3PRA Standard との対応チェック(第 12 章)
比較表案（翻訳）_20230208

P8SC36-4-12-2：12 章_新旧対照表_20230208

P8SC36-4-13-1：L3PRA 標準改訂検討_13 章&附属書 L_r1

参考資料

P8SC36-参考 1_参考 2：レベル 3PRA 分科会名簿

P8SC36-参考 3：2022 年度倫理教育について_依頼文

分科会開始時点において委員 20 名中 16 名が出席しており、本会議が決議に必要な定足数を満たしていることを確認した。

1. 人事について(P8SC36-1)

以下2名の常時参加者の登録が承認された。

- ・大沼 俊彦 (原電エンジニアリング)
- ・鈴木 ちひろ (原子力規制庁)

一方、以下3名の常時参加者の登録解除が報告された。

- ・成宮 祥介 (原子力安全推進協会)
- ・新添 多聞 (原子力規制庁)
- ・松本 裕人 (原電エンジニアリング)

2. 前回議事録確認(P8SC36-2)

第 35 回 (10/24) 議事録原案に対して 4 名からコメントを反映し、本案の内容で承認された。

3. 倫理教育について(P8SC36-3)

倫理教育に係る各問いかけについて、意見交換が行われた。主な議論は以下。

- ・ L3PRAは、サイトの外側の領域を扱っているため、外部の意見を取り入れたリスクコミュニケーションが重要である。(項目 No.2)
- ・ 業務上のコミュニケーションについて、上司と日ごろから日常会話(無駄話)をすることは、有益な情報(過去のトラブル事例等)を得ることができるので、有用である。(項目 No.3)
- ・ 原子力施設の設計・建設・運転・保守等の管理にあたり、経済性を優先しつつ必要十分な安全性を確保することについて、IRIDM標準では、優先の度合いは、打合せ、社会/地元の意見、運転の経験等を踏まえ決めていくことを推奨している。(項目 その他)

4. レベル3PRA標準改定に係る作業について(P8SC36-4-*)

【4～9章】

報告事項なし

【10章】

- ・ コメント対応を検討した。
- ・ 「移転」、「一時移転」という用語が混在している。
→用語の統一に関しては、まず各章の中で、使い分けを明確にする。文献ごとに定義が異なる場合、注釈を入れるなどして明確にする。
→各章にて対応したうえで、他の章と調整が必要な物についてまとめて分科会で議論することとする。
- ・ 「放射性核種」、「放射性物質」という用語が混在している。

→基本的に「放射性物質」が良いと考えるが、核種グループの記載がある箇所等は、「放射性核種」にすべきであり、各章の中で、使い分けを明確にする。

- ・ 避難遅れ時間は、アラートから、避難が始まるまでの時間。
- ・ 表I.9「初期」「中期」「後期」に単位としてkmが記載されているので、補足説明が必要か検討する。

【11章】

- ・ 前回打合せ時における議論に基づき、階層化を踏まえた修正案を作成。
- ・ 「目的および実施すべき事項」はASMEのHLR、「満たすべき事項」はASMEのSRsを参考に記載。「手法及び手順」についても追記した。
- ・ このまま作業を進めることとし、単語等で問題がありそうなものは今後抽出する。

【12章】

- ・ 11章と同様、階層化を踏まえた修正案を作成。
- ・ 新知見の記載検討については、作業の過程で実施予定。

【13章】

- ・ 文献調査について、引き続き実施しているが、「文献-9 Full-Scope Site Level 3 PSA」は、更新がない状況。
- ・ 階層化の方針案に関して、前回の方針案1（ASMEのHLR、SRsに基づく構成案）に加え、方針案2について紹介された。
- ・ 方針案2は、IRIDM標準に基づく案であり、現行の標準を大きく変えない案である。従来標準の「一般事項」は「総括事項」として基準に相当し、指針を「総括事項」以降に記載する。ASMEで求められている「計算コードの選定」、「妥当性確認」を本章に加える方向で検討しており、どのように記載するかが課題である。
→章によってコードの有無があるため、適切な記載箇所として13章「リスクの定量化」と附属書A「品質確保に関する留意事項」を検討し、gbv13章「リスクの定量化」にコードのV&Vについて、まとめて記載する方針とした。どのような着眼点で記載するかは今後、担当者と調整・相談することとした。

【14章】

報告事項なし

【15章】

- ・ 今後、13章にコードのV&Vが記載されると、本章にも記載が必要となる。

6. その他、今後の予定、状況連絡等

- ・ 今後、中間報告を作成する必要がある。（中間報告予定 2023年8月）
- ・ 時間がタイトであるため、各章担当者は、本日の打合せを踏まえ作業を進めると共に、今後、必要に応じて、個別に打合せを実施していただきたい。
- ・ なお、中間報告以降に、参考文献等がアップデートされた場合、アップデートの規

模感を踏まえ、学会標準に反映する。数値のアップデート、表の追加程度であれば反映可。

以上